

図書 紹介

どうすれば食の安全が守られるか いま、食品企業に求められる品質保証の考え方

編者：米虫節夫(近畿大学)

著者：上野武美(㈱ハチパン)・植松繁顕(京都生活協同組合)・奥田貢司(㈱帝京化成)・
衣川いずみ(㈱QA-テクノサポート)・佐藤徳重(フードテクノエンジニアリング㈱)・
角野久史(㈱角野品質管理研究所)／

発行：㈱日科技連出版社／〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-4-2／

Tk03-5379-1244／B 6 判／165 頁／価格 2200 円 (税別) ／2008 年 9 月 9 日発行

「食品偽装はなぜ跡を絶たないのか」、答えは「儲かる」からである。では、「あなたは食品関係者です、あなたは食品偽装をしますか」との質問に対して、ある HP の集計によると、①ハイ、お金のためならします 541 人(12.9%)、②ハイ、上司の命令ならします 2351 人(56.0%)、③ハイ、もったいないからします 220 人(5.2%)、④イエ、絶対にしません 1089 人(25.9%)であった。あなたはどこに該当しますか。

偽装・不祥事の続く食品業界において「儲けより大切なこととは」はあるのか、それはなんだろうか。2007 年以降、食中毒被害者のいない食品不祥事や事件が続発している。2008 年に入っても 1 月に農薬「メタミドフォス」が混入した中国産冷凍餃子による食中毒の発生は「故意」を疑わせる事態で、原材料ではなく、食品加工品の残留農薬もクローズアップされてきた。さらに 9 月に入ってから三笠フーズ(米穀加工販売)等を始めとする汚染米(アフラトキシン残留と残留農薬基準値超過)の不正転売、さらに中国における有害物質のメラミン牛乳混入事件は日本にも波及し、その食品偽装は表示偽装から流通偽装に及び、衛生や品質の管理をはるかに越え、労務・人事管理にまでおよんでおり、企業の体質改善を推し進めることが食の安全・安心を追及するうえで非常に重要な事項となっている。どうすれば食の安全が守られるか、次の 5 章を読めば理解できるであろう。

第 1 章 食品不祥事を科学的に総括する

第 2 章 輸入食品の安全性を検証する

第 3 章 食品表示を分析する

第 4 章 トレーサビリティで食の安全・安心を確保する

第 5 章 コンプライアンスで「企業」「従業員」「消費者」を守る

次に各章のサブタイトルを見ていくと、第 1 章は、わが国の食料事情と輸入食品の現

状、大きく変わる食品不祥事の特徴、なぜ、不祥事が発生するのか、食品偽装と法律違反、不祥事から何を学び何をなすべきかなどであり、第2章は、輸入食品の安全性の問題、中国製食品の安全性と必要性、中国製食品を今後どう考えるべきかなどである。第3章は、法令に則した食品表示とは、表示の不祥事を起こさないために、正確な表示を行うポイントなどである。第4章は、食品のトレーサビリティの必要性、トレーサビリティ確保での食の安心づく、各国のトレーサビリティ確立の取組みなどであり、第5章は、他社のコンプライアンス違反から何を学ぶか、今、求められているコンプライアンスとは、コンプライアンス体制の運用・チェックなどである。ほかに参考文献、農薬の知識及び餃子の製造方法が付録として付いている。

本書は、文末が「・・・である。・・・する。」でなく、「・・・ます。・・・です。」と従来の編者らの執筆と文体を異にし、また、第1章の冒頭から第1人称の「私が最近感じたちょっとやばいな」の書き出しなど読者層を広げる工夫が見られるが、統一性を欠いている点は気になるところである。いずれにしても編者がまえがきで述べているように本書は食品安全ネットワークの成果であり、食品偽装・不祥事の続く社会状況の中で今後もこのようにタイムリーな成果の出版を期待している。(学会事務局)